

おわりに

そもそも地域に関わる主体は地域住民・地元企業・外部の人々など多様であり、それぞれの主体のつながりこそが地域の将来ために必要であるということがこのグループで共有してきた問題意識である。それぞれの個人が興味を持つ視点から地域資源の価値を考察し、人・企業・空間・自然・歴史など様々な角度から地域資源の可能性を見出してきた。人と人の交わりによって唯一無二の思い出をつくったり、経済力や幅広い情報網を持つ企業を地域事業に巻き込んだり、市民がプロスポーツチームを支える柱となったり、雪や森林など自然が生み出すものを地域の生活に役立てたり、歴史・文化によって地域のアイデンティティを形成したり、日常生活ではあまり意識されないものや当たり前前に存在するものも、活かし方によっては地域の貴重な資源となりうるのである。

しかし、地域資源としての課題もある。グループ内の共通の課題として挙げられたのが地域資源の持続性である。たとえ地域資源があったとしても活動が継続されなければ、資源の意義がなくなる。今ある地域資源に関して地域の人々が持続的視点で考えているのか、それとも一時的な営利目的としかとられえていないのかは疑問である。地域の持続的な発展を考えるのであれば、地域資源を将来継続させる方法を見出すことが必要不可欠である。今ある地域資源を長期的な視点で、いかに継続していくかという点が各地域の永遠の課題であり、その時代ごとに取り組みねばならないこととなろう。

最後に、つながりという点に着眼して地域資源を考えてきたが、やはり他の主体との協力なしにはどんな地域資源も機能しないことを改めて痛感した。多様な機関がかかわることによって規模がかなり拡大し、地域としての可能性も大きくなる。現地住民・企業・行政機関・外部の人々など地域資源に関わっているそれぞれの主体からの継続的協力が必要であり、どの主体も欠けてもならないのだ。たった一つの主体が欠けるだけでも、地域資源が活用されなくなることは十分に考えられる。つながりをいかに形成し、そしてそのつながりをどのように生かすかということが地域資源の有効活用に寄与していくことであろう。